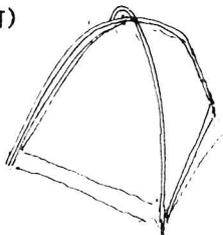


部誌ベルクハイムに掲載された広告を見ても、やはりそこに時代は映し出されているものです。ここではスポーツ店に絞ってまとめてみます。

- 1号 丸善運動具店(大手町) ニシナガ商会  
(香林坊) 大和デパート(片町)
- 2号 山みち(上伝馬町) 西田運動具店(堅町)
- 3号 丸善運動具店 西田運動具店 山みち  
コジマスポーツ(尾山町) 田村テント  
制作株式会社(野町広小路)
- 4号 大和デパート 西田運動具店  
コジマスポーツ 田村テント制作株式会社
- 5号 大和デパート 西田運動具店  
コジマスポーツ 田村テント制作株式会社
- 6号 大和デパート 西田運動具店  
コジマスポーツ 田村テント制作株式会社  
北村運動具店(木倉町)
- 7号 大和デパート 西田運動具店  
コジマスポーツ 田村テント制作株式会社
- 8号 コジマスポーツ 田村テント制作株式会社  
中村スポーツ店(広坂)
- 9号 西田運動具店 田村テント制作株式会社  
マンゾク製靴(金大生協)
- 10号 田村テント制作株式会社 マンゾク製靴
- 11号 西田運動具店
- 12号 コジマスポーツ ホリイケ(本町)
- 13号 ホリイケ
- 18号 チャムラン(笠市町)
- 19号 チャムラン 好日山荘(安江町)
- 20号 チャムラン ケルン(尾山町)
- 21号 チャムラン ケルン
- 22号 チャムラン ケルン
- 23号 ケルン
- 24号 ケルン 好日山荘
- 25号 ケルン
- 26号 好日山荘
- 35周年記念誌 ケルン(高柳町) コージツ  
(東大通店 新神田店 高尾店)
- 33~37号は1997年1月発行  
以後発刊されていない。



経年変化を追うと、長い間には店そのものが消失した…が一番多いようです。

テントやザックは、アウトドアの言葉が出てくる頃から、テント屋を離れました。

また、デパートについては、血洗いの腕と忍耐を買われて、食堂専属団体バイトをやっていた時代があり、そのお情けでいただいた広告でした。紙面の山用品の階に出入りしていた訳ではありません。

その他は、当時の現役部員が出入りしていた



スポーツ店であって、「広告をお願いします」が言いにくいほどの付き合いはあった店とみなせます。どう考えても、それは広告費ではなく、寄付金に該当する出費といえました。

14~17号では、広告ゼロです。山小屋改築が部財政を圧迫、見劣りする体裁での発行がやっとなったため、欲しいけれどお願いにもいけない結果であったようです。

27号から、再び広告はなくなりました。その後は6年に一度の発行となり、広告を集める伝統もなくなりました。

35周年記念誌の広告は主に、25期雄谷さんが自分の人脈で電話を入れてくれ、現役がその後足を運んで獲得したものでした。寄付そのもので広告を出してくれたOBもいました。また、あの時、ノウハウなしの広告取りの陣頭指揮をとった34期松浦さんは、今明石市役所勤務で、花火事件のその後に奔走しています。

今、現役会計は、高三郎登山道修復の補助金で潤い、もう広告とりの必要はなさそうです。だからといって、部誌が発行されるわけでもないのが「時代」です。

さて、今、中高年登山ブームが押し寄せています。20年近く続いてきた点からは、加齢による次の変化がそろそろできそうではありますが…。

出版物を見ても、切り口をやや変えては、重複購入をねらい、綺麗なカラーページばかりが豊富で、「行きたい」心を煽るようになっていきます。

一方、地図がダウンロードできたり、リアルタイムの天気情報が入手できたり、山情報を閲覧できたり…情報が簡単に手に入りになりました。まさに本人の力量とは無関係に入手でき、それがまた「簡単に」登れる錯覚を招きます。携帯電話で「私はどこにいますか?」「地図?持っているけれど、わかんない」。

そんな方達のために、山用ナビが開発され、ザックの上に広げておける太陽電池も軽量化が図られています。

以上のような変化を、「今時の」と、編者は嘆いておればいけれど、客としてお相手を務める山道具屋さんは、たいへんに違いありません。

「スポーツ店」で電話帳を調べると、それだけではわかりにくいもののサッカー専門、ラケット専門など、扱うジャンルが決まっているものです。

個人商店の場合、山・スキーとジャンルを絞った中で多種の商品展開をし、道具とフィールドの最新情報・話題に通じ、地域での顧客をきっちり押さえていく…が、生き方となるのでしょう。

一方、コージツ、アルペン、モンベルなどの全国チェーン店は、山溪、岳人などの月刊誌、発行本に宣伝することによって、不特定を含む集客をしています。自社製品をブランド化や、直営店といった展開もしています。山道具店というより、アウトドアの言葉の方が嵌まる店構えです。金大ワンゲルにカヌーのジャンルが加わったのも、これらの店舗でみかけたり、情報入手できるようになってからのようです。今、コージツには35期吉田さんがおり、モンベルは現役、留年OBの貴重なバイト先ということで、広告をいただきに行くなら、そちらのあたりでしょうか。

もちろん、大規模店の1コーナーとして、ゼビオ、デポはそのように店舗展開をしています。どんなスポーツにどんな用品が売られているのか？大体育館か倉庫か？の中を眺め歩くのは楽しいものです。ただ、そこで商品整理に忙しい店員に聞いても、あるのないのしか答えてもらえず、時にはこちらが「こういう時に使う、こんな形の物で」と説明することになります。つまりはこちらがすでに知っているような消耗品を、安く購入が目的の限定利用になります。

以上のように、山道具店にも、時代の波は押し寄せ、目的別利用もなされています。

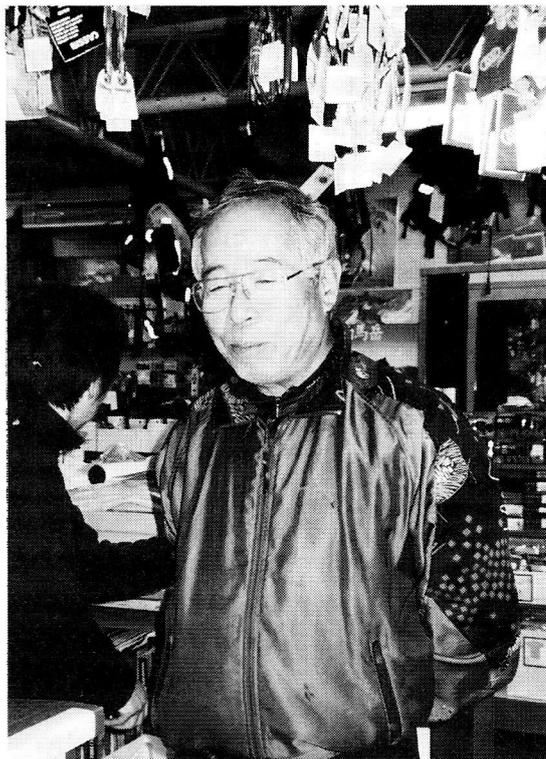
「ケルン」は金沢にあって、一早く郊外型店舗経営を始めた山・スキー専門店です。オーナー吉田さん夫婦がしっかり舵取りをしてきました。

振り返れば、息子達の小さな山靴、また末っ子を担いでいくためのキャリア、その二代目…いずれも意にかなう品がケルンにはありました。その頃他の店では見つからなかった子供サイズの豊富さ、安定感のあるキャリアでした。

また、笈ヶ岳に参加を決めた私達夫婦が、無縁と思っていたアイゼン、ピッケル、エアーマット、厚手シュラフ、さらには増えた荷物のための大型ザックと20万円の出費になってしまったのも、ここケルンでした。カードが使えないとのことで、道具は預けたまま後日支払いに来ることになりました。面倒に思った一方で、万が一がきまとう山遊び…現金決済をなるほどと

思い、出費の分気を引き締めたものでした。

山道具屋さんならではの、見える時代、世相があるはず。厚かましく取材をお願いしました。



「えっ？カ丸さんや林さんと載るの？  
格違えますよ。困っちゃうなあ…」

## 吉田 孝男

(よしだ たかお)

略歴 昭和20年生まれ。昭和53年より、山とスキー専門店「ケルン」を経営。6年後、尾山町より、高柳町に移転。

現在も年に40回余りの山行、山スキーを楽しむ。

まず、お年は？意外とお若かった。こちらがベテランだとかなり年上のはずの発想をしてしまうからである。そういえば、息子達の登山靴を探しにきていた頃、退屈を紛らわす手頃な遊具が店の片隅に置かれていた。あ、同じ世代なんだと、頭の中を前倒しにする。まずは私の知っている頃の山や社会を背景に、お聞きしていけばいいのである。

石川県出身。それだって、富山県のはずと決め付けていた。ああ何も知らんなと思いつつ、今の山仲間についても実はそうは知らないと気付いた。山へ来たら山の話をする。下界を持ち込まず楽しむ…それが山の世界なのだ。

一番初めの山は高校生の時。近所の人に連れ

ていってもらった剣岳であったという。オヤジの作業ズボンを引き、借り物のキスリング、キヤパンの出で立ちだした。キャンプの際の水の冷たさを何より覚えているという。

ところが、自分から山に行きたい気持ちは全くなかった。のめり込んだのはスキーの方。23才の頃だった。24才からもつぱら白馬へ通うようになり、暇になる夏もついその近辺の山へ足を運ぶようになった。さらにはその白馬のスキーの先生自身が山のベテランで、山の話でもできれば、早春の蓮華温泉の山スキーなどにも誘ってくれた。そんな中で山靴、山道具が増えていき、休日はぶらぶら一人で山へ行く…そんなふうになり山が始まって行ったのだそうだ。

そのように彼自身は山の組織に入ったことはないそうだ

「自分は組織を好まない方の人間でした。今もそうですが、クラブを作ることも好みません。だから、店でやっている山行も、自由に参加していただければいいのスタンスで紹介しています」

「本当は技術向上とか、いろんな知識を深めるためには、組織に所属した方がいいでしょうけれどね…」

さて、部の現役数も、減る一方であるけれど、それでも金大内の部員数では2位になるらしい。ワングルだから減ったのではなく、組織を嫌う全体風潮の中で、減っているということになる。

そのような、組織に属さない選択は、自由である替わり全てが自己責任となり、より旺盛な知識欲が必要になるはずである。が、単にひとりよがり、世間知らずで固まっているのみのようでもある。

では、組織に所属する側はといえば、おんぶにだっこで利用するのみ、が顕著になってきている。組織には、組織を維持していくための役職と、教わったことを次代に伝える責任がある。そんな負担面には関わらず、会費を払えばサービスを受けて当然とする風潮がある。ただ、山に関しては、そのように無責任な利用レベルでは、何も身につけてはいかないものだ。

どちらの選択にせよ、長短わきまえての自己研鑽が必要であろう。

吉田氏の場合、組織には所属しなかったが、その時々教わる方がいた。

「立山へスキーに行っているうちにチロルに顔を出すようになって、佐伯さんに山の話聞くようになりました。あの頃一人で行くと、山小屋の主人はよく話をしてくれたものでした。蓮華温泉の田原さんも、炬燵にあたりながら、

このへんの山のうち、あの辺りは絶対入るな、雪崩の危険がある。今度はこっちの道から来てみると、詳しく教えてくれました」

「その後、見上峠の湯原氏やナカオ山岳会の林氏など紹介いただいて、少しずつ教わってきました。今も来店の方から色々聞いています。山の危険は隠れた所にいっぱいある…そのことを私はしっかり教え込まれました。」

「だから難しいことをやってきたということじゃないんですよ。せいぜい、剣の源次郎尾根ぐらい…それも重広氏のガイドで」

部誌の20号から、ケルンの広告は登場する。祖母谷から天狗の大下りの写真が使っている。祖母谷の名剣温泉が奥様の実家なのだ。

「結婚して1年くらいで、女房の父親が体を悪くしまして。女房の弟がまだ高校生でしたから、山小屋を手伝ってくれんかと頼まれました。2年間やりました。でも弟がいましたから、私の性格としては、まあ、親と一緒に仕事をしてほしかったらしいですけど、二人ではうまくいかんと思いましたが、女房もそう思っていたようですし。やむなく今の仕事を始めたという訳で」

「昭和53年6月のことです。まさに無一文でした」

「その前に、重広恒夫（最近では123日百名山踏破が有名。それ以前は、K2日本人初登頂など、ヒマラヤでの山歴豊富）を知っていたんです。当時はアシックスに勤めていましたね。彼に相談したら、ある問屋さんを紹介してくれて、そこから始めることになったんです」

昭和53年といえば、現役数が一番多かった頃である。相応に需要のあった頃ではないだろうか。

「初めは商品をたくさん仕入れることができなくて、こまめにちょっとずつ、自分でできる範囲で仕入れていました。それが、知らないうちにこんな状態になって…」

遠い目付きになって店を振り返られる。堂々たる構えの山、スキー専門店である。尾山町に6年で、ここ高柳町に移転してきた。当時スポーツは、学生か、有閑人のやることで、スポーツ店なるものも、金大の回りや繁華街にあったように記憶する。いち早く、郊外型店舗を展開したわけである。すでに、スキー、登山に、マイカーは不可欠になってきており、駐車場があり、豊富な品揃えの床面積を誇る郊外型を彼は選択、軌道に乗せた。

「ワングルの方、金大の山の会、山岳部、それにナカオの方にも、いろんな方のお世話になってきました」



奥様と、夏は岳沢ヒュッテの従業員だった次女。

ワングルの方はあんまり…とは思うけれど、地道な苦勞の報われた方の「みなさんのお陰で…」には、こちらもほっこりした思いにさせられる。

さて、お店で山行をされるようになったのはいつからだろう。

「一番下の娘が、中1の時から始めて、今高3だから…。6年前あたりからになりますかねえ」

私には、この表現がよくわかる。末っ子がどの程度手が離れているかで、わが家族の行動圏も選ぶ山も決まっていたからである。その成長に重なる背景の山があって、以前来た時は、あの子は背中で、子守日傘の紐で遊んでいたなあ…は、とっておきの思い出である。

「それ以前にも、店の休みの火曜日には出掛けていたんですけどね、私と女房と、あとは店に来た暇そうな人に、あした山へ行きますけどくらいに声を掛けて」

「どうせなら、アフターサービスで連れて行ってあげられないかと、その頃から年間予定をたてて貼り出すことにしました」

山専門店が、地域の山グループの紹介をするだけではなく、自ら山行を計画して募集する…今はよくみかけるサービスになった。客をつかみたければ当然かといえば、私は引率する側の苦勞がよくわかる。ボランティアであってさえ、添乗員なみにサービスを要求され、我儘、苦情をぶつけられる。事故にいたっては、店の方が立場が悪くなるはず。だいたい、この人は…のようなお客さんを断ることにすれば、逆効果にもなりはしないか？

「そうですね。引率する側には事故が一番嫌

なことですよね。私は1回もないんですよ」

「出発前には山行申し込み書に記入してもらいます。そして相当に釘を刺してしまいます。それでもよかったらどうぞということ」

事故がないといっても、膝痛、頭痛といったトラブルぐらいはおきる。膝を痛めると治りにくいので、ザックを持ってあげる場合もたまにはある。目の届く範囲で行動してもらおうを徹底しているとのこと。

きれいに整理された山記録。スリーブ保存ネガにも、なるほど目の届く範囲の人数の方達が写っている。20~30人、まして、70~80人でそろそろなんて、異常だ。私はそのような会を手伝って来て、何度も一緒に登りながら、あの人達の名前も覚えられなければ、山の話をしたこともなかった。主催者の意図が浸透し、把握できうる人数…保険より何より、根本の安全策であると思う。

「国内旅行の延長で山へ…それは堪忍させてもらっています。お客さんだからといっても、

#### ケルン山行参加申込書

山行名	年月日
御氏名	生年月日
御住所	TEL/FAX
お勤め先	TEL/FAX
山行歴	
病歴	
山岳傷害保険加入会社名	
所属山岳会名	TEL/FAX

注 山岳会に所属の方は、必ず登山計画書を会に提出し、山岳会の承認を得てください。  
又、病歴のある方や、健康に不安のある方は、医師の診断書を提出していただく場合があります。

思い付きで山へ来るのではなく、計画性をもって。行くんだったら、よく調べてから、分らん所を聞きに来てくださいと言っています」

「何も調べないで、何から何まで聞いて、それで『私、白山行けますか』じゃ困るんです」

今の世の中、好意が仇になることは多い。サービス業ゆえ、あるいは、ボランティアであった私達より苦境に立たされる場面も…と想像していた私には、深く首肯けるフレーズだった。つまりは、「いいことをしてあげている」気分、引率していた私達の方が隙だらけだったのだ。やっぱり店を背負って、自己責任で生きてきた人は違う。

そのような「私、白山に行けますか」のような人を、山行の場合には釘を刺す手があるとして、肝心の商売上ではどんな対応になっていくのだろう。

まず靴。「軽い物」だけがポイントになってしまうという。

「帰るまで安全に足を守り、さまざまな地形でよりカバーしてくれるとなると、相応の厚さ重さがでてきます。軽い靴はそれらのどこかを削って軽くしているんです。だから『こちらの靴の方が安心して登れますよ』とは言うんですけどね」

「私も3足くらいを使い分けています。本当は全種を履いて試してみればいいかもしれませんがね。以前より重い靴を選ぶようになった気がします。昔ならどんな靴を履いても、気にならなかった。体がカバーしてくれてたんだと思います。今はああ、こっちの方が乱暴に下りても安定すると、違いがわかるようになりました。それだけ体力がなくなった、年をくったんだと思いますけどね」

次にザック。「白山行くんですけど、どれくらいの大きさがいますか」と、来る。彼が、25~30lのザックを見せると、「そんなの担げな〜い」となるようだ。

「『夏の白山なら、こういう物が必要だし、体調を崩したり、怪我をしたり、お腹を壊したりといった病気も考えると、これくらいの物は持っていかないと安心できませんよ』と言ってもダメですね。うわの空です」

「で、そういう人には、『いきなり白山ではなく、それだけの装備を担いで行ける山からまず登ってみて、白山に備えて下さい』と言うしかないんですけど、なかなかねえ」

「私もそうなんですけど、この年くらいになると頑固というか、人の意見をいれてくれないとか…」

私もメモの手をとめ、大きく頷いていた。若



ければ、若気の至りもある一方で、先達の言うことにまず耳を傾けようの心もあるだろう。始末が悪いのが中高年。山では未熟のはずなのに世間では一人前だからの頭があつてか、聞く耳をもたない。

ガールスカウトの団長も言っていたっけ。子供はまだ、「ここで待て」と言えば待っている。手に負えないのが大人。「私はあだから、こうだから」と、勝手に変えて、それで迷惑になるかもの意識がない。

すなわち、靴もザックも軽い方がいい。その方がバテないではないか！バテたら登れないし楽しめないではないか！ではトラブルがおきたら…すべて人任せなのである。それが、あるいは死につながるかもとは全く考えていない。自分の入り込んでいる山とはどういう環境なのかか意中しない。

中高年登山ブームは、山道具店には嬉しいことに違いない。でもかえってそのエゴに翻弄されている生々しい現場かもしれない…の予想はあっていたようだ。かつては経験を交えつつの商品説明は楽しかったに違いない。今は…

「昔は、聞き方がすごくきちんとしていたように思いますね。こちら尋ねられれば、責任の持てる範疇でお答えする。知らないことは知らない、そういうことなんですけど」

「聞かれれば、ザックはこういう大きさ、持っていくのはこういうものと、ご説明する訳ですが、『どうして？どうしてそんな物があるの？』と…」

「きちんとした方と、きちんとしていない方が、はっきり分かれているように思いますね。夏なんか、特にそうですね」

いる物を聞いて、あれこれを手にした、彼、彼女達は、次には「高い」の、「あれこれ買わせようとして」の苦情を言うのだろう。吉田さんは、つい、

「お金は無理にかけなくていい。防寒具などは家の押入に汚れたのとか、穴があいて縫ぎをしたのとかあるでしょ。そういうのを山用に持って行けばいいんですよ」ともアドバイスしてしまうようだ。

すなわち吉田さんは、きちんと山に向き合い安全に帰れるを最優先に、体力・経験を積み、その過程で、相応しい装備・道具が揃えられていくことを望ましく思っているわけなのだが、今の登山ブーム層は、年代的にそう離れてはいないはずなのに、認識がずれているようなのである。

装備に関して、他にはどんな変化が見られているだろう。

「雨具は完全にゴアテックスが浸透しましたね。30年前の出始めの頃は、ジャケットだけで4万5千円ぐらいしていましたが、今は上下で2万、3万であります。たたくと小さく、軽く、よくなりましたね」

「ストックがよく出ます。聞かれれば2本の方が楽ですとは言いますが、1本の方が片手が使えと云う方が多い。まあ好みですね」

「ピッケルも、もともと、ホールドとバランスを崩さないための道具で。まあ、滑りだしたら停められませんからね。アイスピックも出てはいますが、まあ、氷や岩場へ行く人は減りましたね」

「クライミングやっている人はいるんですけど、人工壁とか、完全に独立したスポーツでやってて…。昔は登山のジャンルで、山の途中には岩もあるからと、ザイルワークも幅広く取り組んでいたように思いますが、今は別の層という感じですね」

「それでかどうか、店に来る層では、登山目的の若い男の人が少ないですね。それは山を歩いているともそうで、見かけませんね。単独行してるのは女の人の方。でっかいザック担いで。それも綺麗な人が多い。店頭で若い女性に『あんた達みたいな綺麗な人が山へ来てくれていたら、若い男の人も来るようになるかもね』なんて、声かけています」

ワングル現役も、今年の新人は男子2、女子6の割合だった。その女子達は骨があって、元気だという。そして、夏合宿リーダーをやった3年生女子は「男二人がひ弱で、私は30キロ以上担ぐはめになって…。荷物の軽いパーティーに抜かれるのが悔しかった」と、頼もしい弁。女性の活躍大歓迎。しかし、それを上回っているはずの男性、人口の半分いるのに、大学なら上回る数の方なのに、どこへ行った？

「コンロは年配の方でもよく買っていかれるようになりました。ガソリン系は非常に減りました。ガスに押されたんですね。何ととっても便利ですからね。ただガスは、9月の黒姫でもお湯が沸きにくいことがありました。日帰り圏内の行動でも、使えなくなることがあります。便利な物には落とし穴があるものです。私は、寒い時期は、ガスとガソリンと両方持って行くことにしていますね」

「水筒は売れなくなりました。ペットボトルで十分ですからね。そこそこ丈夫ですしね。ただ、うっかり落とせば割れるおそれがあるし、気圧の変化も加わりますし。私は必ずアルミの11と、ペットボトルという組合せにしています」

「衣類も次々新しい素材がでてきています。ただ、そんな化繊の肌着は-20℃までといわれています。結局ウールが一番で、-20℃以下になるとウールが良いと聞いています」

「ようするに、自分にふりかかることは、自分で注意する…その立場で道具を選び、使っていけばいいんです」

言葉の端々に「自己責任」の信念が通る吉田さんである。

「舟田さんは、鈴をつけて行かれますか」山によりけりだけれど、まだ親の責任はあると思ひ、夫婦だけの時は必ずつけている。

「危険というと、すぐ熊と思う人が多いようですが、実際には落石とか、枯れ木の倒木とか、スズメバチとかの危険の確率の方が高いですよ」

ようするに、山の危険=熊、対策に鈴をつけた=それで山は安全と、あまりに短絡な安全概念のここのようである。

「前に女房の山小屋にいた時、いろいろ教えてくれる人がいて、黙って後ろを付いていくということもありました。そうすると、見通しの悪い笹藪、動物臭い所、あるいは道が急に曲がるような所で、その人は声を出していましたね。ホッホーという感じで。相手に、熊とかなんかに『私達がいるぞー』という合図を送っていたんですね。だから私も、見通しの悪い時や、けもの臭かったり、糞を見たり、風が向こうから吹いてきててやばいなあとと思うような時には声を出すことにしてるんです」

ああ、なるほど。山には先住人がいるとの認識。地形、風、状況といった我が身が今どこにいるかを五感をとぎすませる確認。そういったマナーも、保身の技術も警戒心もなく、「綺麗!」「健康的!」「快適!(軽装備、清潔、温泉付きなど)」で山へ入り込んでいるのが今の登山者なのである。

今、情報はあふれている。その一方で「人から人への本当の知恵」のようなものは伝わっていないのではなからうか。

「自分で得るより、習う知識の方が多いと思います。自分でできる経験なんてわずかなものです。本も読んでます。読んでわからない所があったら、幸い親しいのがいますから、電話をかけて聞いたり。昨日もこれ(先にお届けしてあったOB会の会報)読んで、なるほどと」

編者はテレテレ、汗顔の至り。それでも読んでもらわなければ伝えられない、間違いの指摘もしてもらえないと、恥をかくことにしているのだ。

そろそろ電話が繁く掛かりだした。最後の質



問のあたりである。この後にいただいた山行予定表を掲載しておくが、山行数から、その行き先から、しかもその多くが「日帰り」には啞然である。今年海の日に舟田夫婦は、猿倉～白馬～清水岳～不帰岳～祖母谷～樺平を歩いたのだが、二日目の長かったこと！そこを日帰りしたという。正確には、女房と黒部駅で別れ、自分は糸魚川で泊り、電車がないので翌日車をとりに行ったということだったが…。前回の買物の際、思わず

「それじゃ、ほとんど走っていたんじゃない？」と、聞いたら、そのコースは女房は20年ぶりくらいだったから、清水から不帰の避難小屋まではとぼし、そこからはメドがたって、歩いたのだという。もちろんそんな精鋭ルートに同行したのは奥様の友人一人だけだったそうだ。

「日帰り」を頭においてコースをもう一度見ると、「釘を刺される」以前に御辞退申し上げなければならない所ばかり。

「あの…トレーニングは…できるはずないですよ、お店がありますし。ようするに、これだけ行かれています、山行そのものがトレーニングってことですよ」

「舟田さんが想像されてるほどすごいことはやってないです。老夫婦がちんたら歩いているだけのことで…」

「コースはどうやって決めておいでですか」

「だいたいこいつがこの山行きたい、あの山行きたいって言って（奥様の方を見てニコニコ）、来月の終わりは早月やなとか、二人で行く時なら、そろそろ体力つけんなんなとか店中でしゃべってたり」

「まあ遅くなってもヘッドランプをつけて、安全にゆっくり下りればいいから。そんな感じですよ。そんなむつかしく考えてないですから」

「ただ、夜遅く山から下りてくると、食事する所がない、風呂入る所もない…それが一番あいそむくないですね。コンビニじゃ味気ないし…と言っても、帰りはいつもラーメンです」

ウワワ…である。誰にでもお勧めできることではないが、ヘッドランプを持つ、非常食を持つ、ツェルトも持つなど十分な備えをし、コースを熟知していれば、日帰り圏にも随分と余裕が出来、安全の幅を広げて考えられるということなのである。

それにしても、そういうシオリを持つ旦那はいいとして、それに付き合っている奥様はもっとすごいではないか！



さっきとは反対側から。いよいよスキーシーズンです

「山へ行きたい気持ちは私より、あいつの方が強いと思いますよ。」

そりゃあ、女性は妊娠の育児のと、拘束される時間が多い。「行きたい」が暮る所はわかりますけど…。

「女房もね、佐伯さんの魚津岳友会に入ってたんですよ。だけど自営業だったから、普通のサラリーマンが行けるような時にかえって休めない。行きづらかったみたいです」

その、かもしかのような奥様はあちらでニコニコと笑っていらっしゃる。

今年の日帰り圏で一番遠かったのは越後駒、鷺羽岳になるらしい。あんな所が日帰り圏？またも口がぼかんとあく私に、やはり見通しがつく所まではとぼして、後はヘッドランプつけて歩いていたのだ…の返事。

聞いたところで真似はできない。ただ、たしかにそうやって装備をきちんと持てば、不測の事態がおきてもパニックに陥らずにすむかもしれない。

道具がどれだけ、山での安全を拡大してくれるか…それを日帰り登山で実証しているのが吉田さん夫婦なのだった。

骨の髄まで「山道具屋のオヤジさん」なのだった。

1999 山行予定表

月日 曜日	山名 (行程)
4.10土~11日	蓮華温泉 (榎ノ森 天狗原 7カ 沢 小屋 天狗庭 乗鞍 天狗原 榎ノ森)
4.13火	日照岳 (尾神橋 送電線巡視路 山頂) 往復
4.20火	笈ヶ岳 (中宮温泉 地雷谷 冬瓜山 シツカ山 P1626 山頂) 往復
5. 4火~ 5水	燕岳 (中房温泉 合戦小屋 燕山荘…泊 山頂) 往復
5. 8土~ 9日	立山御山谷 (室堂 室堂山荘…泊 一ノ越 御山谷) 往復 Mt.SKI
5.11火	頭巾山 八ヶ峰 (野鹿ノ滝 登口 山頂) 往復 (染ヶ谷 分岐 山頂) 往復
5.15土~16日	立山剣沢 (室堂 みくりが池山荘…泊 雷鳥沢 御前小屋 剣沢) 往復 Mt.SKI
5.18火	三周ヶ岳 夜叉ヶ池山 (岩谷川登口 夜叉ヶ池山 三周ヶ岳) 往復
5.20木	別山 (一ノ瀬 チブリ小屋 御舎利 山頂) 往復
5.23日	毛勝山 (片貝山荘 阿部木谷 杓ヶ谷 稜線 山頂) Mt.SKI
5.25火	高三郎 (犀川弘 金山谷 石楠花尾根 山頂) 往復
6. 1火	川上岳 (位山山荘 山之口川登口 P1617 山頂) 往復 200名山
6. 6日	粉糠山 (天生峠 天生湿原 芥林分岐 山頂 分岐 小平湿原 登口)
6. 8火	権現岳 鉾ヶ岳 (柵口登口 胎内洞 権現山頂 突鷄峰 鉾ヶ岳 鳥道鉱泉)
6.13日	赤兎山 (小原林道登口 小原峠 山頂 避難小屋) 往復
6.15火	漆山岳 ( )
6.20日	僧ヶ岳 (烏帽子分岐登口 前僧ヶ岳 仏ヶ原 山頂) 往復
6.22火	北ノ俣岳 (飛越トンネル登口 飛越新道 寺地山 避難小屋 山頂) 往復
6.29火	笠ヶ岳 (新穂温泉 登口 杓子平 山頂) 往復
7. 1木	楯崎山 (ゴドラ山頂駅 瀬戸倉山 大品山 山頂) 【重広恒夫氏ふるさと名山登山】
7. 3土	別山 (市ノ瀬 祝 芥ヶ小屋 御舎利 山頂) 【重広恒夫氏ふるさと名山登】
7. 6火	霞沢岳 (上高地 明神 峠 P242 K1 K2 山頂) 往復
7.13火	蓮華岳 (扇沢 大沢小屋 大岩 針ノ木峠 山頂) 往復
7.14水~16金	烏帽子 野口五郎 水晶 赤牛 奥黒部ヒツテ 平渡し 黒四弘 立山室堂
8. 6金~ 8日	白馬岳 【中日白馬登山】
8.17火	浄土山 龍王山 雄山 別山 (室堂 浄土 龍王 雄山 別山 雷鳥沢 室堂)
8.24火~27金	祖母谷 清水岳 白馬岳 朝日岳 犬ヶ岳 白鳥山 親不知
8.31火	前穂高岳 (上高地 岳沢小屋 山頂) 往復
9. 5日	唐松岳 (第一ヶルン 八方池 上ノ樺 丸山ヶルン 唐松山荘 山頂)
9. 7火	剣岳 (馬場島 早月小屋 山頂) 往復
9.14火	薬師岳 (折立 三角点 太郎小屋 薬師峠 薬師小屋 山頂) 往復
9.21火	蝶ヶ岳 常念岳 (須砂渡 三俣 前常念 常念 蝶ヶ岳 ヒツテ 三俣)
9.28火	釈迦岳 (分岐 山頂 北龍 大汝 御前峰 室堂 加和 別当 分岐)
10. 5火	猫又山 (取水口 芥ヶ谷 峠 山頂) 往復
10.12火	金山 雨飾山 (大海川登口 天狗原山 金山 笹平 雨飾 荒菅沢 小谷)
10.17日	人形山 (中根山荘 宮屋敷 分岐 山頂) 往復
10.19火	三方崩 (平瀬林道登口 四等三角点 P1624 基準三角点 P1956 山頂)
10.23土	経ヶ岳 (保月山 杓子岳 中岳 山頂) 【重広恒夫氏 ふるさと名山登山】
10.26火	別山 <del>三ノ峰</del> (市ノ瀬 芥ヶ小屋 別山 三ノ峰) 往復
11. 2火	青海黒姫山 (鉦山事務所 前山 山頂) 往復
11. 9火	位山 (スキー場登口 P1233 天ノ岩戸 山頂 天ノ泉) 往復
11.16火	浄法寺山 丈鏡山 (旅行村 冠山 芥ヶ背 浄法寺山 丈鏡山) 往復
11.23火	立山 雄山 (室堂 一ノ越 雄山) 往復
11.30火	奥医王山 (見上峠 医王ノ里 西尾平 白π山 夕霧峠 奥医王) 往復

- ☆ 一般装備 (必ずご用意下さい)
  - 登山靴 雨衣上下 防寒具 下着替 (含靴下) 手袋 地図&コンパス ナイフ ハンドランプ (予備バッテリー)
  - 水筒 弁当 非常食 嗜好品 常備薬 保険証写 洗面具 筆記具 時計 マッチライター ロールペーパー
- ☆ 特殊装備 (季節 場所等による特殊装備 必要時はお知らせします)
  - ビッケル アイゼン ザイル スリング カギナ ルーネ シェルフ マット テント ヨーグル スコップ目出帽 オーバーグローブ 羽毛服 コンロ 鍋 etc.
- ☆ その他の装備 (一般に有ると便利なもの)
  - チャッカカー スタッフバッグ ステッキorストック スパッツ ミニ袋 キングラス コップ コンロ ラジオ 電話 無線機 高度計
- ☆ 上記山行を希望の方は、事前にコース等を検討の上、無理の無い山行にご参加下さい。尚万が一に備え、山岳傷害保険等の加入をお奨めします。(10日前迄にお申し込みください)
- ☆ 装備は山中で良くあるトラブルを最小限にとどめる為必要な物です、必ずご用意下さい。

ケルン 2001年 山行予定表

Date	Mt.NAME
4.17 火	口三方岳 (直海谷登口 烏帽子分岐 口三方山頂) 往復
4.24 火	初雪山 (滝淵発電所 林道 山頂) 往復
5. 8 火	高頭山 (熊野川第3発電所 滝分岐 ノ平 前頭 山頂) 往復
5.12 土	立山 Mt.SKI (御山谷 浄土西面 国見)
13 日	(雷鳥沢 剣沢)
5.15 火	岩籠山 夕暮山 (林道登口 堰堤 分岐 岩籠山頂 夕暮山頂 分岐 登口)
5.20 日	金剛堂山 (栃谷 前金剛 山頂 奥金剛 林道 東俣谷源頭 林道 栃谷)
5.22 火	朽木山 (吉野東猪谷林道登口 山頂) 往復
	六谷山 (茂住峠 P1370 山頂) 往復
5.27 日	鳴谷山 (百合谷登口 鎧壁 分岐 山頂) 往復
5.29 火	小秀山 (キノ場 夫婦滝 三の谷分岐 カサ岩 山頂) 往復
6. 5 火	天蓋山 赤坂山 (黒河峠 広場 分岐 赤坂山 分岐 三国山 広場 黒河峠)
6.10 日	三笠山 (山ノ村キノ場 P1380 雀平 山頂) 往復
6.12 火	銀杏峯 (小葉谷橋登口 鉦山跡 大雲谷分岐 山頂) 往復
	部子山 (ゲト 登口 神社跡 山頂) 往復
6.19 火	僧ヶ岳 (東又発電所 成谷山 山頂 仏ヶ平) 往復
6.24 日	赤兎山 (小原林道登口 小原峠 山頂 避難小屋) 往復
6.26 火	四阿山 根子岳 (菅平登口 P1992 根子岳山頂 南峰 北峰) 往復
7. 1 日	大門山 赤摩木子山 (カオ 峠 分岐 大門山頂 分岐 赤摩木子山頂)
7. 3 火	有明山 (黒川沢登口 前山 P1714 落合分岐 北岳 中岳 南岳) 往復
7.10 火	鳥甲山 (貉平登口 白ヶ山 剃刀岩 山頂 赤ヶノ頭 屋敷山 屋敷)
7.17 火	越後駒ヶ岳 (駒ノ湯登口 栗ノ木沢ノ頭 小倉山 前駒 山頂) 往復
8. 7 火	お花松原 (別当出合 殿ヶ池ヒツテ 黒和 室堂 大汝分岐 お花松原) 往復
8. 8 水	お花松原 (同上)
8.14 火	白山 (別山 南竜 室堂 大汝 四塚 釈迦岳 市ノ瀬)
8.21-24	中央アルプス縦走
8.28 火	白馬岳 (猿倉 白馬尻 大雪溪 清水岳 不帰岳 祖母谷 樺平)
9. 4 火	鷲羽岳 (新穂 ヲヒ平 秩父沢 鏡平 双六小屋 三俣山荘 山頂) 往復
9. 8 土	白馬岳 (猿倉 白馬尻 新カ平 白馬山荘) 泊
9 日	(白馬山荘 山頂 三国境 小蓮華 大池 樽池自然園)
9.11 火	笠ヶ岳 (笠新道 杓子平 山頂 刈ヶ谷 槍見温泉)
9.18 火	剣岳 (早月尾根) 往復
9.25 火	鹿島槍ヶ岳 (大谷原 西俣出合 高千穂平 冷乗越 冷池山荘 山頂) 往復
10. 2 火	黒姫山 (御巢鷹林道登口 姫見台 黒姫乗越 山頂 峰ノ大池 乗越 登口)
10. 9 火	岩菅山 (一ノ瀬登口 聖平分岐 岩巢護橋 ノヅキ 山頂) 往復
10.16 火	涸沢岳 (新穂高 白出沢 奥穂山荘 山頂) 往復
10.20 日	中山 (馬場島 後本松 山頂) 往復
10.23 火	火打山 (笹ヶ峰 黒沢 七曲 富士見平 高谷ヶ池 天狗ノ庭 山頂) 往復
10.30 火	鉢伏山 (7ヶ谷登口 亀谷分岐 鉦山跡 山頂) 往復
11. 6 火	奈良岳 (奥池林道登口 奥三方分岐 山頂) 往復
11.13 火	飯綱山 (大鳥居登口 飯綱神社 山頂 神社 分岐 戸隠中社)
11.20 火	火燈山 (吉谷不動登口 火燈山頂 小倉谷山頂) 往復
11.27 火	十二ガ岳 (八本原分岐 山頂) 往復

上記山行を希望の方は、事前にコースを検討の上、無理の無い山に御参加下さい。尚、万が一に備え、山岳傷害保険等の加入をお奨め致します。又、下記の装備は必ず御用意下さい。

装備 (必ずご用意下さい)

登山靴 雨衣上下 防寒具 下着替 (含む靴下) 手袋 ハンドランプ ナイフ 地図 コンパス マッポライター  
 水筒 弁当 非常食 常備薬 保険証写 時計 洗面具 筆記具 ロールペーパー ゴミ袋 etc.  
 その他の装備 (有ると便利なもの)  
 スティックストック チョクガール カメラ コンロ コップ 携帯電話 無線機 高度計 キンガラス etc.

詳しくは右記迄 ケルン 金沢市高柳町2-7-1 TEL 076-252-5255 営業時間 平 日 10:30-20:00  
 FAX 076-251-0832 日祭日 10:30-19:30

**スキー・登山・キャンプ**  
**大幅割引中**

山とスキーの専門店  
**ケルン** CAIRN

〒920-0005 金沢市高柳町2-7-1  
 ☎(076)252-5255 FAX(076)251-0832  
 ●営業時間/10:30~20:00 ●定休日/火曜日

1999. 4. 20撮影 シリタカより笈ガ岳 2000. 6. 20撮影 釈迦新道下のオオサクラソウ

**冬山用品・アルペンスキー**  
**テレマークスキー・山岳スキー**  
**新春セール**

山とスキーの専門店  
**ケルン** CAIRN

〒920-0005 金沢市高柳町2-7-1  
 ☎(076)252-5255 FAX(076)251-0832  
 1月4日より14日まで休まず営業  
 ●営業時間/10:30~20:00 ●定休日/火曜日